

平成 25 年度第 2 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 25 年 12 月 11 日 (水) 10:00~11:30

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

| | |
|------------------------|-----------------------------|
| ・橋本 和英委員 (市小学校長会) | ・伊東 明彦委員 (宇都宮大学) |
| ・高田 芳紀委員 (市中学校長会) | ・沼尾 順市委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会) |
| ・矢野 篤委員 (市子ども会連合会) | ・天谷 文夫委員 (県林業センター) |
| ・相田美智子委員 (市レクリエーション協会) | ・坂内 剛至委員 (ネイチャープラネット代表) |
| ・村上 敬吾委員 (県キャンプ協会) | ・芥川 一男委員 (公募) |

(事務局) 坂野 忠 所長 黒須 正宏 副所長 駒野 拓也 指導主事 佐藤 洋美 指導主事

○欠席者氏名

馬上 剛委員 森山 公子委員 入江 尚見委員

○公開 (傍聴者の数 0 人)

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

① 平成 25 年度事業経過報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般利用)

事務局 : (資料にそって説明)

会長 : ご質問, ご意見を。

会長 : 6 月 20 日の利用者のための研修会は, 参加者が多く大変だったという話だったが, 募集人数は 50 名となっている。募集人数範囲内であったが, 大変だったのか。

事務局 : 例年 30 名弱の応募であり, 予想外の参加者数であった。

会長 : 姿川第一小学校は台風であったが。

橋本委員 : 学校で対応を悩む前に, センターからご指導いただいたので, スムーズに 3 月に延期することができ, 感謝している。

芥川委員 : 全体的な感想であるが, いろいろな面でアンケートや意見などが次の計画に反映されており, 職員のみなさんのよりよいものにしていこうという努力を感じる。前年同様という場合が多いが, 変更点, 改善点などが報告の中になかなか見られた。われわれの意見や利用者の意見を聞きながら, それを的確に反映して改善していく姿勢が感じられる。こういう施設では大切なことであると思う。

坂内委員 : 保健室の利用状況の報告に関しての提案。活動中のけがと活動以外の生活面でのけがと分けるとよいのではないか。活動中のけがは指導員が付いているので, 実際には, この数字より少ないだろう。いかに活動以外の生活面での注意が必要かという数字が現れ, 説明としてもわかりやすいと思う。

事務局 : 活動場面でのけが, 生活場面でのけが, またここに来る前にしたけがなどもあり, 統計が非常に曖昧になっている。ご意見を参考に, 今後はそのような形で統計をとっていききたい。

芥川委員 : 1 ページの宮っ子チャレンジの受け入れについて, どんな内容の活動をしているのか。

事務局 : 主に 2 つの体験をしている。1 つ目は小学校 5 年生と中学校 1 年生が行っている冒険活動教室の児童生徒の活動支援の補助を行う指導業務, 2 つ目はリネンの搬入や階段の整備, テントの洗浄などセンターの裏方の仕事を行う管理業務で比較的, 子どもたちがきつと感じる内容のものである。子どもたちにとってはどちらも非常にいい経験になる。子どもたちにとっては, 特に, 管理業務のことが印象に残るようで, 多くの感想が聞かれる。指導業務の難しさを感じることも大切だし, その指導を裏で支える人がいることに気づくことも重要である。

村上委員 : 活動の安全基準の見直しを行った結果, 何か変化があったか。

事務局 : 対象の団体に提案はしているが, 実際には, 常に指導を行っているという方ばかりではないので, リーダーバンクを活用する団体が多い。ただ, 活動についての問い合わせをいただいているので, 今後は, 見直した基準に合わせ, 有資格者がいる団体がセンターを利用する機会が増えていくことが考えられる。

会長 : センターエレメントとは何か?

事務局 : イニシアティブゲームの一つ一つの種目のことである。

- 高田委員： 本校は11月の実施であった。化学物質過敏症の生徒がいたが、事前から打合せをしたり、本人と保護者が下見に来た時に、使用する場所を案内してもらったりしながら、活動がどうか、生活面がどうかということの一つ一つをいねいに確認していただいたりした結果、何事もなく3日間を過ごすことができ、大変感謝している。
- ただ一つ、本校の前週の学校がテントを使用した際、寒かったということで、本校はテントを使用せず、アリーナ泊をした。職員によると、トイレに行くと周りも目が覚めてしまい、ぐっすり眠れなかったとのことだった。学校としては、自然の中での体験活動ではあるが、夜はゆっくり寝かせて体調管理をしたい。同じ時期でも、年によって気温が違うと思うが、11月のテントはいつごろまでの使用とするといいのか、今後の課題になるのでは。
- 会長： 冬のテントの使用時期はいつまでか。
- 事務局： 学校利用は小学生が10月まで、中学生が11月まで、一般の方は、10月までとなっている。ただ、ご指摘があったように、11月のテント使用は場合によっては非常に寒い。若松原中学校の前の学校は、テントを使用したか、朝方の最低気温が氷点下であった。対応を考えていかなければならないと感じている。ただ、ロッジのキャパシティーに限界があるので、大規模校はどうしてもテントを使用しなければならない。テントの使用時期を前倒して考えていく必要がある。日数の関係で、いつも可能なわけではないが、私たちとしては、11月初旬、遅くても第2週までをテント泊の限界と考え、先生方のご意見をいただきながら、利用計画をつくっていかうと考えている。
- 橋本委員： お金がかかることを上は嫌うと思うが、宿泊棟などを増やす可能性についても、多くの学校や団体から現状に無理があるという意見があることを、少しずつ理解していただけるよう伝えていけるとよいと思う。本校は、台風の影響で10月から3月に変更になったが、本当はもっと早い時期に子どもに体験させたい。冒険活動教室は非常に貴重な3日間であり、子どもたちがクラスとして、学年として団結していくなど、見違えるほど変わっていく姿をずっと見てきた。4年生から5年生になって残念だなと思った。また、5年生でも学校によっては遅い時期での実施となり、6年生の間際になって、友達のよさやみんなと活動する心地よさなどを改めて感じるようになる。施設や宿泊棟などの充実を図るのはなかなか難しいと思うが、そういう方向も少し考えていただいて、できるだけ早い時期に、多くの学校がこういった経験をつめるような日程を考えていただけるとありがたい。そういうことを財政なども理解していただけるとありがたい。
- 坂内委員： 冬のテント泊は、経験させたい体験でもあるので寒さ対策を考えるとよいと思う。シュラフをよいものにするとお金がかかる。お金がかからず、エコでいけるものとして湯たんぽはどうか。お風呂のお湯を使って一人一つ持つようにする。普段、うちでも使っているが、温かくてよい。
- 事務局： 宿泊棟を増やすことに関しては、委員会等と相談しなければならないが、ご意見がたくさん出ているということは、今後も伝えていきたい。寒さ対策ということで、冬の寒い時期でのテント泊は貴重な経験であると思うが、なかなかそれだけというわけにはいかない。学校受け入れについては、先生方や学校の思いとすり合わせをしながら受け入れを行っていききたいと思う。
- 芥川委員： 個人の責任でやっている活動ではない。個人でやっているときは、自分で湯たんぽなども考えると思うが、団体で活動していることを考えると難しいかもしれない。
- 会長： いろいろ案がある。検討していただきたい。
- 沼尾委員： 一般利用の関係で、地元関係のことを。9月に当センターのレストランを会場にした敬老会を行っているが、今年天候の関係で中止になったので、昨年度より何百人か一般利用が減っていると思う。また、例年日曜日に当センターで行っている事業を12月7日土曜日に日程変更をしたが、学校利用があったため利用できなかったもので、40名くらい利用が減っている。また、10月27日のフェスティバルだが、自分の記憶では、過去の中で、今年が一番出店した店への来客が少なかった。同日に、ろまんちっく村で100人店というイベントがあり、近隣の道路がいっぱいになるほど大盛況であったようだ。篠井は地理的条件があるので、街の中などでイベントがあると来場者が減る。別件で、今年度、ろまんちっく村とまちづくり協議会で連携した企画があって、来年度より榛名山のハイキングとろまんちっく村の利用をセットで活用することを考えている。
- 事務局： フェスティバルの開催時期については、委員のみなさんからいろいろご意見をいただいたところであるが、多くのイベントが重なる中でも、市内のイベントと調整をしながら、寒くもなく暑くもない10月半ばから下旬にかけての開催で計画している。篠井地区の地元のみなさんには、大変大きなご協力をいただいているので、今後も連携をとり、連絡を取り合いながら事業を進めていきたいと考えている。

(2) 協議事項

① 平成26年度事業計画について（ア 学校受入事業、イ 主催事業）

- 事務局：（資料に沿って説明）
- 会長：ご意見を。特にちびっ子キャンプについてのご意見を。
- 矢野委員：ちびっ子キャンプについて、年2回開催で、日帰りと一泊二日になっているのは、何か意味があるのか。
- 事務局：1, 2年生を対象として、参加者20名で考えている。日帰りについては、小学校1, 2年生だとまだ宿泊を伴うイベント、行事に参加したことがないお子さんもたくさんいると思うので、簡単な参加者の顔合わせや仲間づくり、ネイチャーゲームを行って、まず導入の自然への気づきの機会をつくりたい。その後、9月の下旬に、日帰りのできた友達と一泊二日のテント宿泊体験をするという計画で考えている。参加者については、2回とも同じお子さんが対象になる。
- 村上委員：キャンプ協会では、1年生から3年生を対象として、ここの施設を借りてキャンプをやって4年になる。参加者40名ということでやっているが、私どもの事業の中では人気のプログラムとなっている。組織的なものもあると思うが、スタッフの確保が一番大変である。また、保護者を伴った事前研修が必ず必要になる。内容的には、登山や川遊び、そして食べ物を作るということが子どもたちにとってとてもよい体験であるように思う。これまでどうしてそういった事業がないのかとと思っていた。ぜひ、やっていただけるとよいと思う。
- 事務局：事前研修ということで、日帰りの方は、日程的に拘束時間をあまり長くとらず、保護者の方にも一緒に参加していただくという形で考えている。私たちは、ノウハウがないので、情報の提供をいただけるとありがたい。
- 相田委員：日本レクリエーション協会で、昨年、一昨年と福島県的那須甲子で小学校3年生から6年生を集めてキャンプを行った。3年生でもかなり大変だった。おねしょの関係で夜中に起こしたり、夜泣いてしまったり、かなり大変だった。同じメンバーで、デイキャンプを3回くらいやるのはどうか。低学年だと1年生から3年生を考えているのか？
- 事務局：1年生と3年生だと発達段階がだいぶ変わるので、1, 2年生に絞って考えている。または、あくまで計画の段階ではあるが、幼稚園児はどうかなど、デイキャンプも含めていろいろな方法を考えている。私たちは、小学校高学年と、中学校についてのノウハウはあるが、1, 2年生のカウンセリングについては不慣れである。実施するにあたっては、私たち職員の研修も必要となってくる。また、受け入れ人数も最大でも20人くらいを考えている。具体的にどういった形が負担なく、また効果があるのかというところを考えているところである。デイキャンプについても検討していきたい。
- 芥川委員：これは、全くこちらの発案、立案であるのか。それとも、お客様から小さい子に経験をさせたいという意見が多かったから計画されたものなのか。
- 事務局：お客様から意見もいただいている。また、社会のニーズも十分ある。以前から、私たちの中でも話にはあがっていたが、なかなか実現に至らなかった。今年度、学校受け入れが大きく変わってから3年を迎え、新しい事業を起こしてもよいのではないかと考えた。そこで、今までターゲットにしていなかった小学校低学年の自然体験について関わっていく時期なのではないかと考え、今回提案した。
- 芥川委員：子どもと親を離して、1泊2日の間、職員が見ることを考えているのか。
- 事務局：はい。
- 芥川委員：私も子どもを育てた経験があるが、親は子どもを参加させるかもしれないが、行かせられる子どもの側に立って考えると、職員だけで面倒を見切れるのか。そこで、私は、家族で、デイキャンプでもっと活用してもらおうとよいと思う。要は、親と子の間で、経験してもらおうのはどうか。小学校低学年で、親から離れてキャンプなどを経験させることについて、やる苦労と効果をもう少し考えてみたほうがよい。親と子が一緒に料理を作るとか、これだけの施設であるから、利用の仕方はたくさんある。
- 村上委員：一般公募なので、1年生から2年生といっても、家族キャンプをやっている方だとか、こういうところでの活動に関心をもっている人が応募してくる。テントの中で寝ることについて抵抗がある子は比較的少ない。スタッフで苦労したということは少ない。40名の参加者でスタッフが10名。1班10名で4～5班。1班2名のスタッフでみた。目が届かないということはなかった。子どもたちが怖がったということも一切なかったし、キャンプ活動に対していやだったという話は聞かなかった。みんな喜んで帰った。
- 会長：親子のキャンプは実施していますよね。
- 事務局：実施している。
- 村上委員：1年生で参加している子も何人かいるが、そのうちの何人かは、2年生、3年生になっても参加している。そういうことから考えても、いい経験になったのではないと思う。

その後、4年生からのキャンプにもつなげていける。ぜひ、小さいころからのキャンプ体験を無理のない内容でやれるとよいと思う。

事務局 : 自然の中での基礎体験を、無理のない、子どもたちにあまり負荷がかからない内容で実施したいと考えている。ご指摘いただいたスタッフの大変さについては、私たちにとって未知の部分であるので、デイキャンプの回数を増やして子どもたちのハードルを少しずつ下げていくことも一つの方法であると思う。今後、内容について考えていきたい。今年度の家族ふれあいキャンプについては、小学校3年生までの参加が多く、4年生以上は少なかった。こういうイベントに家族と一緒に参加する児童が減るようである。宇都宮市内に住んでいる子どもたちは、5年生で冒険活動教室で確実にここに来る。それまでに自然体験の入口に触れて欲しいという思いがあったので、このような形で提案した。内容についてまた少し考えて提案したいと思う。

会長 : 経験されている方の意見を聞いて計画されるとよいと思う。

坂内委員 : 今年度、自然体験活動指導者養成研修会を一泊二日で開催したということで、前回の会議でも話題にしたが、日程的に詰め詰めでやらないとできないと思うが、実際にやってみてどうだったか。

事務局 : 日程は非常にタイトであった。初日の午前中から、2日目の終了も5時を回った。2日間、休みなくカリキュラムを組み実施した。今年度については、参加者のみなさんが意欲的で終始笑顔で楽しんで研修を終えられた。センターの都合で1泊2日というタイトなスケジュールを組んでいる。できればもう少しゆとりがあるとよいと思うのだが、来年度も一泊二日で計画している。

会長 : どのような方が、受講しているのか。

事務局 : さまざまである。中には、学生もいるし、現役の学校の先生もいる。年齢も幅広く10代から50代ぐらいの女性の方までいた。これから、いろんな場面で活躍していきたいという思いで興味を持って扉を開けてみたという方が、今年度は多かった。

会長 : 仕事をもっている方が多いとなると、土日しか参加できない。参加する方にとっても、この日程は参加しやすいのかも知れない。

芥川委員 : 研修を受けた方々のフォローはどのしているのか。例えば、リーダーなどに登録してボランティアで事業に参加していただくなど。現状はどうか。

事務局 : 今年度については、こちらで研修を受けた有資格者について、エンジョイサタデーで5名、フェスティバルで5名、冒険キャンプで1名指導者としてお手伝いいただいた。各事業について、こちらから案内を出してご協力をいただいたり、または指導者の方から、何かありますかと問い合わせをいただいてご協力をいただいたりしている。適宜、スキルアップというか、こちらで研修を積んでいただきながら、上手く活用していきたいと考えている。本年度は、上手く指導者の方を活用できたと考えている。

芥川委員 : いろいろな方がいると思う。学生もいれば、自分で興味を持って受ける方もいる。やはり、経験、回数を重ねた方がよいと思う。いろいろな経験を積んでいくことがスキルアップにつながっていく。できるだけ研修を受けた方が実力を試す機会を多くしてあげることが、研修をした側の役割などではないかと思う。毎回参加できるわけではないと思うので、こちらから、できるだけ多く、また継続的に情報を発信していく必要がある。

事務局 : せっかく資格を取っていただいた指導者の皆様には、センターとしてもつながっていきたいと思うし、また研修も随時受けていただくよう、今後も情報を提供していきたい。

会長 : 炊飯場利用の件について、一般利用が増えるに従って、経費がかかるという話があった。昨年も値上げの議論をした。もっと値上げをしたいということか。値上げをすればもっと利用が促進できるのか。

事務局 : 値上げをしたいというのは、本音である。ただ値上げをすることで利用が伸びるかどうかについては疑問である。施設維持、または環境づくりということを考えると、このあとどうしても修繕費がかかってくる。現在のところ、炊飯場の施設利用については、一切使用料をいただいてない。炊飯用具、食材を持ち込みでご利用になるお客様については、全くお金がかからず利用ができる。ただし、センター側としては、水道料金も電気代も生ごみ処理も人件費も全てかかっている。これは、予算の関係もあるし、歳入が増えたからといってセンターが潤うわけでもない。システム上の問題もあるかと思うが、今後、受益者負担ということも考えると、修繕費も含めて、対応に迫られる時が来るのではないかということをお委員の皆様にも知っておいていただきたいと思い、ご報告した。市全体の流れとしては、現在使用料を取っていないものを新たにとるということが、検討になる話題である。私達としては、今後のことを考えると使用料を取ることが望ましいと考えている。炊飯場3棟にかまどが36あるが、今までは、かまどの稼働率のデータを取っていなかった。かまどの破損と稼働率、稼働状況がどのように関係しているのかのデータをもっていない。今後はそのデータを取りつつ、市と協議をしていきたい。

- 矢野委員： 市子ども連合会から。来年度、エンジョイサタデーの1日を共同というか、指導者の育成の場として参加したいという意見がある。後で、個別にご相談したい。もう一点、利用促進について、子ども会の意見として使用料が高いと。宇都宮市内のコミュニティーセンターは、減免となり、料金がかからない。母体と同じ宇都宮市であるこちらは、減免が一切ない。その辺りがどうにかなればもう少し利用するのではないかという意見がある。過去には減免はしていたのか。
- 事務局： 開所以来、減免の措置はしていない。宇都宮市の団体、子ども会、育成会からは使用料が高いので、こちらは使いにくいというご意見を過去もいただいている。減免措置については、今のところ対応が難しい。
- 矢野委員： 具体的に、どこかの部署に働きかけるということはあるのか。市役所の中で財布はどこが持っているのか。
- 事務局： 市全体の話をする、財政課が予算を管理している。4年に1回全体の手数料の見直しを行っている。前回23年度にあったので、今回は27年度にまた市全体の手数料の見直しの審議会が行われる。その段階で、炊飯場の使用料や宿泊棟の減免などについて問題提起を出せると思っている。確かに他市や他県の施設を見ると、在住者の方よりも県外、市外の方の使用料が高いということで差をつけている施設もいくつかあるし、コミュニティーセンター等では、社会教育団体の利用は減免するということもある。以前の会議で炊飯場の使用料についてご審議いただいたが、どうしても、市全体の風潮として、使用料を上げない、逆にいうと下げる傾向が強く、前は炊飯場の使用料が取れなかった。今回は、そういうことも含めて見直しを図っていきたい。
- 相田委員： 施設の充実ということで、現在、小学校でソーラーパネルの設置を行っているが、それを早めに行うのはどうか。できるところから、少しずつ削減できるような何かを考えていかなければならない。お金が取れないのであれば、そういうところでカバーできるようなものを早めに行うということで、市に話をするのはどうか。
- 事務局： ソーラーパネルを付けるとなると、住宅でつける場合、200万円くらいの費用がかかるという問題、日照時間、対費用効果などの問題もある。その辺について研究していく必要がある。
- 村上委員： ここの財政は、一般会計でやっているもので、設置するにしても、かけるものもあがったものも一般会計に入るので、直接この財布に入るわけではないのであろう。
- 事務局： 歳出は減らせるが、歳入が増えることにはならない。逆に、付けたら、電気代が安くなるので財布を減らそうということになる。その辺は難しい部分である。
- 会長： 全体の計画や学校利用について、何か意見があるか。
- 橋本委員： 南図書館との連携、また食育フェアについてももう少し具体的に教えていただきたい。
- 事務局： 食育フェアについては、昨年まで教育企画課の方から依頼を受けて、センターの活動の様子を展示しながら、クラフトのワークショップのようなものを開いていた。今年度は、食育フェアは「食育」がねらいということで、ネイチャークラフトはねらいにそぐわないのではないかと話があり、協議の結果、参加しないことになった。代わって、南図書館については、施設を利用して欲しいという話があり、主に主催事業や学校の活動の様子パネルを展示させていただいた。週末にはワークショップを開催し、職員を配置して、ネイチャークラフトの工作体験をしてもらった。今年度は、夏休み開催ということもあって、参加者は小さなお子さんが多かった。来年度は、3月末の開催を考えているので、もう少し年齢層の高い子たちまで、小学校高学年の子たちくらいまでをターゲットにできる内容で実施できたらと思っている。具体的には、クラフト意外に簡単なゲームのようなものをパネル展のスペースの中で時間を区切って実施したい。冒険活動教室に来た子どもたちが再び足を運んでくれるような形で考えていきたい。
- 事務局： 冒険活動センターは北の拠点、南図書館は南にあるので、北と南で何かできないかという話から始まった連携事業である。センターの活動をパネルであったり、ワークショップで南図書館で紹介する、逆に南図書館の読聞かせボランティアがうちのフェスティバルで、森の中で絵本の読聞かせをしてはどうかと。
- 橋本委員： とてもよいことだと思う。教育企画課が中心でやっている2月中旬の人づくりフォーラムも南図書館で行っている。今年度は、いわむらかずおさんを招いてイベントを行う。交通の便がいいということもあるし、著名な方も集まるので、結構子どもたちが集まる。連携もしている、そこで冒険活動センターのパネル展もできるとより効果が上がるのではないと思う。今後も人づくりフォーラムは当面南図書館で開催されると思う。今年度参加するのは、時期的にも難しいと思うので、来年度検討していただければよいのではないと思う。
- 事務局： ありがとうございます。
- 橋本委員： 学校利用について。10月4日から7日までねんりんピックが開催されるにあたって、

10月4日は、総合運動公園近くの3つの小学校が協力する。具体的には、10月4日の県の方の開会式に関わる学校は、緑が丘小、陽光小、姿川第一小学校の全校児童である。1週間前、1か月前には予行があるという話を聞いている。各種目の開式については、清原地区の学校が5日の日曜日に関わりがあり、当日や前もっての予行があると思う。その辺りの学校は避けてあるか。

事務局： 利用計画については、まだあくまで案ということで、ねりんピックの開催についても配慮しながら決定していきたいと思っている。

坂内委員： 安全について。冒険活動センターで使っている登山コースの中で、狩猟が認められているエリアはあるか。

事務局： 登山コースについては、狩猟ができるエリアはない。ただ、今後、間伐、伐採などの計画は入っているようであるので、県、国と情報交換をしながら安全な活動ができるようにしていきたい。

相田委員： 安全のところで、虫さされがかなり多いということで、資料を見るとスズメバチ対策とあるが、ハチさされはなかったのか。

事務局： 虫さされについては、ハチさされの被害はない。ほとんどブユである。

高田委員： 学校でも対策として、子どもたちに虫よけスプレーを持たせるとか、長袖長ズボン着用などとしているが、今の子どもたちはブユにさされると腫れ上がる子が多いので、数が増えているのではないかと思う。

芥川委員： せっかくなので、そういう知識ももたせるとよい。こういうところに来たら、いろいろな危険に対する知識も必要なのだということを活動しながらでもいいので教えてもらいたい。こういうところで活動するときには、こういう危険がある、それに対してどう注意したらいいのか、万が一のときにはどうすればいいかなど。

会長： 最後のページの説明を。

事務局： 参考となるが、資料12ページについて。前回会議の入江委員からの質問のあった、冒険活動教室におけるけがの発生と児童生徒の体力の相関関係についてまとめたものである。県から平成11年度から行われている新体力テストの結果を取り寄せて相関を見てみたが、冒険活動教室のけがの発生と子どもたちの体力低下については相関がなかった。平成12年度の保健室利用が突出しているが、前年比で虫さされが3倍に増えている。平成11年9月から逆川でのカヌーの活動が始まり、平成12年度4月から本格的に活動している。おそらく水辺での活動に対するセンターの対策が甘かったため虫さされの被害が多かったのではないかと推測される。翌13年度には対策がとられ、長袖長ズボンの着用、カヌーの活動の際のカップの着用などを設定したということで数が落ち着いた。また、この年は、保健室の対応が大変丁寧であったという話もあり、ブユの被害でも何度も何度も保健室を訪れる生徒がいたようである。そのようなことで保健室の対応も苦しくなり、平成13年度には、各活動に救急バックを携帯し、その場で処置できるものはその場で対応するようになって、保健室の利用も落ち着いてきたと考えられる。ただ、依然として虫さされの被害が0になるということは難しい。今の子どもたちは耐性が備わっていないので、とにかく安全に活動ができるように今後も指導をしていきたい。平成18年度に骨折が突出していることについては、延べのカウントであり、1人の児童生徒が1日に複数回3日連続で来室していることもある。過去にさかのぼって調べることができなかったので、そのままの資料で提示した。実際には、この数に含まれるものは処置数になる。冒険活動教室にくる前に骨折をした子どもの処置数もカウントされている。実際に活動でけがをしたのは1名であった。やけどが平成13年度に多いことについては、おそらくダッチオーブンの使用が関係しているのではないかと考えられる。平成12年度からダッチオーブンを使った活動を提案しているが、その年はダッチオーブンの数が少なく活動としてそれほど出ていなかった。平成13年度に備品数が増えたために、ダッチオーブンの取り扱いが上手くできずに、やけどが増えたものと思われる。平成22年、23年にもやけどの数が増えているが、こちらは小学校の野外炊飯が増えていることが原因の一つとしてあげられる。野外炊飯の活動をするからやけどが増えるということではいけないので、私達も十分安全に配慮をしながら活動の支援にあたりたいと思う。

芥川委員： 光回線の工事が終わったということで、来年度に向けてはPR、ホームページなどに期待したい。

事務局： 来週開通予定である。来年度にはスタートしたいと思う。